



2023

帝京大学
国際化アニュアルレポート

Teikyo University
Annual Report on Internationalization



目次

理事長・学長メッセージ	1
国際化推進体制	2
I . 帝京大学の国際化	
1. 国際化の沿革	3
2. 国際化のビジョン	3
3. 帝京グローバルコンピテンシー	5
4. 海外提携校・機関	7
II . 主な国際交流活動	
1. 特集「海外提携校との交流」	9
2. 国際化推進室	13
3. 各キャンパス	
板橋キャンパス	17
八王子キャンパス	20
宇都宮キャンパス	22
福岡キャンパス	24
帝京大学ダラムキャンパス	27
4. センター・研究所	28
III . 資料	
1. 英語による本学紹介動画	29
2. 外国人留学生在籍者数	29
3. 学生の海外派遣実績	33
4. 学部・学科・研究科英語名称	35

理事長・学長メッセージ

このアニュアルレポートは、帝京大学における教育と研究の国際交流活動を包括的に整理して、本学の国際化に関する成果を学内外に広く発信することを目的としています。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着いた後、海外との行き来が本格的になり、海外提携校からも多くの学生・教職員が本学に来校しました。特に、2022年度に新たな海外提携校として協定を締結したアフリカの大学とも交流を広げることができました。また、2023年度はハーバード大学との学術提携が30周年を迎え、これを記念した講演会を実施しました。この講演会と関連行事では、両大学の歴史的な協力関係を振り返るとともに、今後の更なる協力の可能性について議論が行われました。



冲永 佳史

帝京大学 理事長・学長

本学としては、学生の留学などにかかわる各種プログラムの更なる拡充、キャンパスの国際化の一層の推進、共同研究を含む海外提携校とのネットワーク強化・拡大を引き続き続けていくことが重要と考えています。優れた教育や研究の成果を地域社会や産業界に活かし、国内外の社会のために大学の力を活用することが、大学としての社会的役割を果たすことに繋がります。

世界との交流が進む世の中で、日本で学ぶ良さ、帝京大学ならではの教育や研究を届けて参ります。引き続き、本学の国際化に関しまして、皆様の御理解・御協力をお願い申し上げます。

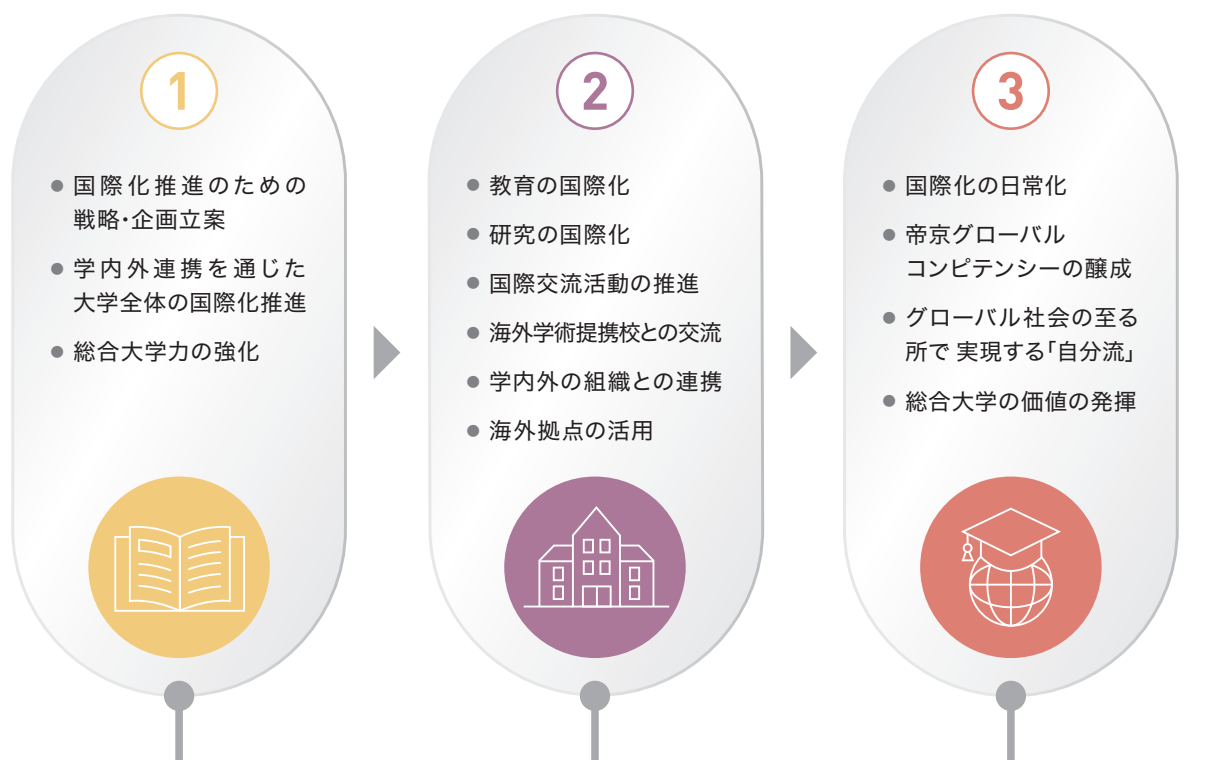
国際化推進体制

帝京大学は、これまでは4つのキャンパスごとに国際的活動に取り組んできました。現在のグローバル社会における分野横断的な社会的課題に対応するため、そして帝京大学のすべての人が国際化を日常化する環境には、キャンパスや学部を越えて、帝京大学全体で国際化を一層加速させることが必須です。大学の社会的役割に資するため、本学に集う学生や教職員の成長のため、総合大学の価値をさらに高めて国際化に向かうことにしました。

そのため、2021年4月、学長直下の組織として大学全体で国際化を牽引する機能を備えた国際化推進室を立ち上げました。国際化推進室は、従来から4キャンパスにある国際部門や委員会のもとより、関連する学内外の組織と連携します。そして、学長と共に大学全体の国際化をリードする戦略立案を行い、大学を俯瞰した情報収集や制度づくりなど、帝京の国際化のために働きかけます。



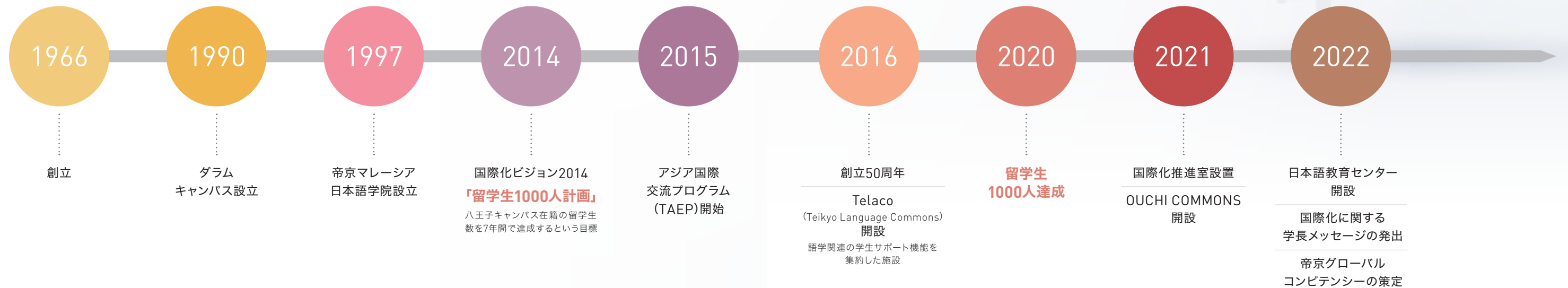
国際化推進室の役割



グローバル社会に生きる、帝京大学のすべての人の「自分流」と総合大学の力で
社会に貢献 未来をつくる 次の世紀もなくてはならない大学へ

I. 帝京大学の国際化

1. 国際化の沿革



2. 国際化のビジョン

帝京大学は、1966年の創立当初から国際的視野に立って判断ができる学生の育成を目指した教育を建学の精神に掲げてきました。それをもとにした3つの教育指針「国際性」「実学」「開放性」は、複雑な課題に地球規模で取り組むグローバル化した今の時代にこそ必要なものです。

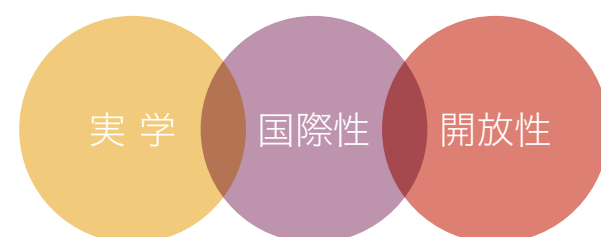
帝京大学 建学の精神 1966年

努力をすべての基とし 偏見を排し
幅広い知識を身につけ
国際的視野に立って判断ができ
実学を通して創造力および人間味豊かな
専門性ある人材の養成を目的とする

帝京大学の国際化の目的

どこにいても、グローバルに、普遍的な視点での観察力、判断力が求められる時代
● ひとりひとりがグローバル社会とつながっていることを意識して、自ら行動する人を育てます
すべての学生と教職員が参加する国際化、そして大学が一体に
● 優れた教育と研究力に根差して、実学と開放性の総合力で社会に貢献します
帝京大学の国際化の取り組みは、未来を切り開き、より良い社会を実現します

教育指針



自分流 — 帝京大学が示す生き方の哲学 —

自分のなすべきこと、興味があることを見つけ、生まれ持った個性を最大限生かすべく知識や技術を習得し、自分の力として行動する

since 1966

帝京大学の国際化推進 学長メッセージ2021

- **実学と開放性 総合大学のかで貢献** 4キャンパスと医療系、理工学系、文科系の分野開放的な実学で、身近な国際化の実現、グローバル社会の役に立つ
- **帝京グローバルコンピテンシーの醸成** どこでも国際化とつながる現代社会の中で生きぬく力
- **国際化を日常化** グローバルエッセンスのある環境、教育、仕事、そして研究

2021 次の世紀にもなくてはならない大学へ 「自分流」の帝京大学 その国際化への挑戦は続きます

3. 帝京グローバルコンピテンシー

コンピテンシーとは、優れた力を発揮する人が持っている能力や資質、行動特性のことです。

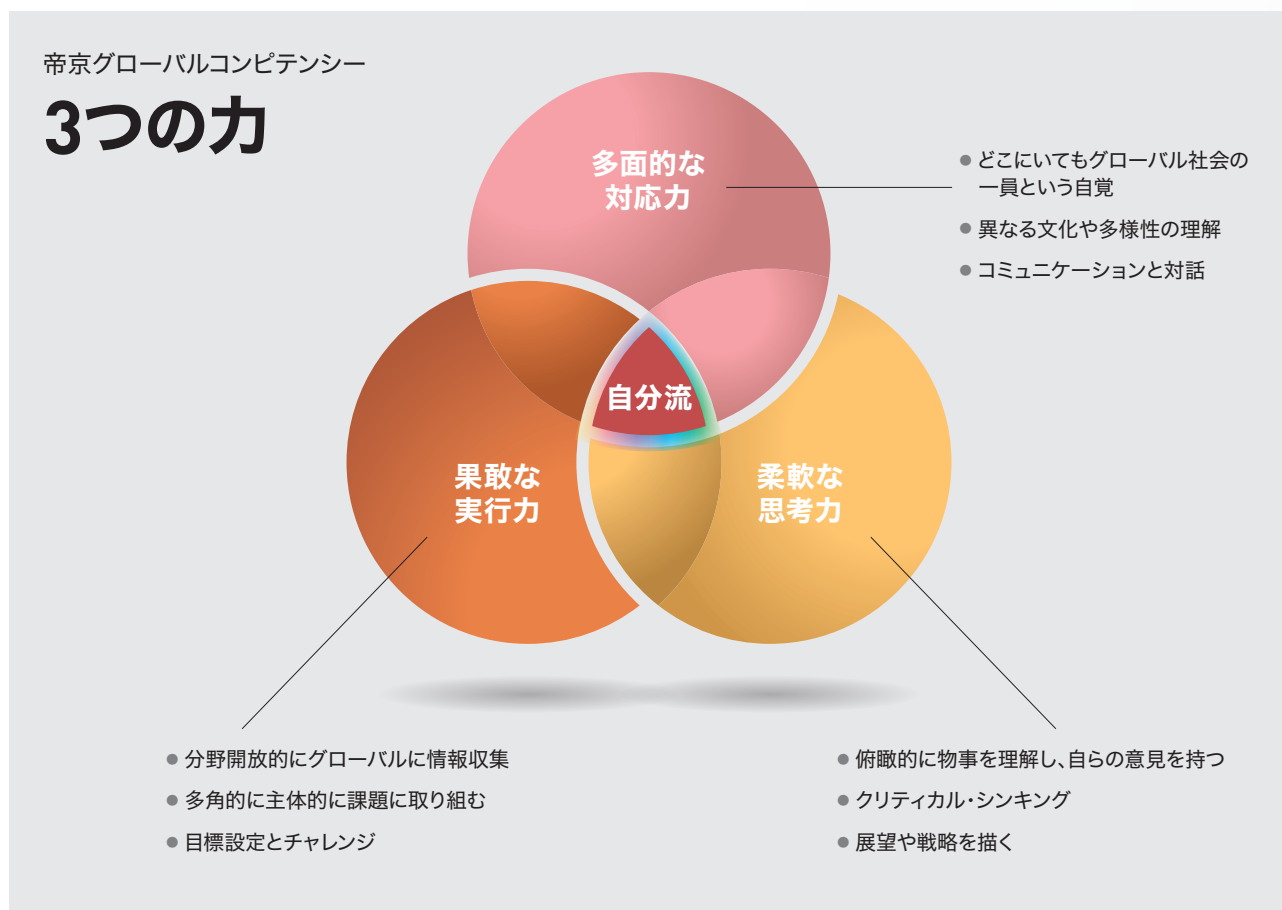
帝京グローバルコンピテンシーは、帝京大学で国際化をより良く実現するための能力と資質のことです。

これは、国際的な活動をする人だけが備える能力ではありません。

どこにいても国際社会と自分を結び付け、「自分流」を目指して行動する。

帝京大学にかかわるすべての人が持っていたい能力のことです。

帝京大学では、大学全体での国際化推進のため、日常のグローバル化を意識し、
持続可能な社会を目指す^{メンバー}一員という自覚を持った、学生・職員・教員の3つの力
— 多面的な対応力、柔軟な思考力、果敢な実行力 — を育みます。



帝京グローバルコンピテンシーは、学内での開かれた議論を通じて、学生、職員、教員・研究者それぞれに具体的な内容が定められました。帝京グローバルコンピテンシーを醸成できるよう、教育への導入、制度の設計、環境整備、海外提携校との交流、イベントなどの場づくりを行い、帝京大学で身近な国際化を感じ、大学に集うすべての人が国際化を日常化できるようにします。

帝京グローバルコンピテンシー 帝京に集う学生・職員・教員と研究者のために

	多面的な対応力	柔軟な思考力	果敢な実行力
学生	1. 自分がグローバル社会の一員であると自覚する 2. 自分の文化と歴史を理解したうえで、異なる文化も理解して、どちらも尊重する 3. 自分と背景が異なる人を受け入れ、コミュニケーションを取る	1. 多様な価値観や、異なる文化を持つ人の意見を吟味して、自らの意見を考える 2. 国内外に視野を広げて考え、専門分野の方法で分析する 3. 分野を越えた学びを通じて考える力を養い、グローバル社会を生きぬく長期的な人生の準備をする	1. 興味があることについて、分野や国内外の壁を越えて情報を収集して共有する 2. 多様化するグローバル社会の中で、自らの好奇心を追究し、目指すべき目標を設定する 3. 学生時代の目標に到達するように、帝京大学の国際的な環境を最大限に活かしてチャレンジする
職員	1. 自分の仕事と生活と、グローバル社会とつながりを認識する 2. 帝京大学を、多様性に富んだグローバルな人材が集まる場として尊重する 3. 国や背景を問わず、大学に集う人を受け入れ、コミュニケーションを取る	1. グローバル社会での大学の位置づけを意識し、大学の課題と自分の役割を考える 2. 所属する部門やキャンパス、国や文化を越えて多様な意見を吟味し、自分の意見を形成する 3. 多様で国際性に富んだ帝京大学の環境を、仕事に活かす思考を持つ	1. 所属する部門やキャンパス、国内外の壁を越えて情報を収集して活用する 2. グローバルで多角的視点を持って、積極的かつ主体的に業務の課題に取り組む 3. 帝京大学の国際性を活かし、グローバル社会に生きる自分のキャリアゴールに到達するようチャレンジする
教員・研究者	1. 異なる文化の学生や教員、国内外の研究者らと協働し、多様性を尊重する 2. 留学生や共同研究者、実務家など異なる背景の人と対話する 3. 一般の人や学生に、世界最新の知見や研究成果をわかりやすく伝える	1. 世界的な大学教育のあり方を意識して教育に取り組む考えを持つ 2. 学問分野や国の垣根を越えた教育と研究の交流と議論に参加して、批判的に思考する 3. グローバルで多様性に富む帝京大学の環境を戦略的に活用し、研究と教育を計画する	1. グローバル社会の動向を捉え、専門分野における国内外の情報を分野横断的に得て、研究や教育を行う 2. 国際的水準の教育と研究実施に挑戦し、その成果を発信する 3. 帝京大学の国際性を通じて、自らのキャリアゴールに到達する努力を継続する

4. 海外提携校・機関

2024年3月時点

Teikyo Global Network

Agreements with
100 overseas institutions





Ⅱ. 主な国際交流活動

1. 特集「海外提携校との交流」

帝京・ハーバード学術提携30周年

帝京大学と米国・ハーバード大学は、1993年に学術提携を開始してから30年にわたり、特に保健医療や公衆衛生に関する教育研究活動を行い、保健医療分野の発展と人材育成に寄与してきました。その重要な活動として2-3年ごとに帝京－ハーバードシンポジウムを国際共同シンポジウムとして開催し、その時代ごとに最新の課題について日米の専門家で議論してきました。また、冲永フェローとしてハーバード大学で研究に従事した研究者は、現在、各分野の指導的立場になって活躍しています。そして、ハーバード大学公衆衛生大学院には帝京大学との連携に基づく Okinaga Laboratory が設置されています。30年の交流の歴史の成果を社会にも発信すると共に、次世代の人材育成にも努めてきました。こうした歴史的活動を記念し、30周年の2023年には、主に2つの記念行事を行いましたので、ご報告します。

【第12回帝京－ハーバードシンポジウム in ボストン】

2023年11月7日、ハーバード大学メディカルキャンパス Joseph B. Martin Conference Center にて第12回帝京－ハーバードシンポジウムを開催しました。シンポジウム冒頭には、帝京大学理事長・学長 冲永佳史が本学とハーバード大学との30年の歩みについて講演しました。続いて、「日米における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からの教訓」をテーマに、両校の専門家による講演が行われました。ハーバード大学からは、感染症ダイナミクスセンターの共同センター長 Bill Hanage 氏らが、最新の研究成果を報告しました。本学からは、公衆衛生学研究科長・教授 福田吉治、ならびに、同研究科教授 中田善規による講演が行われました。福田教授は日本のCOVID-19対策とともに、本学公衆衛生学研究科のパンデミック下の活動について報告しました。中田教授は、病院でのCOVID-19流行期の手術生産性について発表しました。結びの言葉は、本学常務理事・副学長 冲永寛子が述べ、国を越えて対面で語りあうこと、専門家や学生らとの交流を続けることの重要性を強調しました。期間中は、ハーバード大学T.H.Chan公衆衛生大学院の学部長 Jane J.Kim 氏との会談も行い、今後の提携活動などについて企画を検討する機会を得ました。



【帝京・ハーバード学術提携30周年記念講演会】

2024年1月13日(土)、帝京大学板橋キャンパス臨床大講堂にてハーバード大学との学術提携30周年を記念し、帝京・ハーバード学術提携30周年記念講演会を実施しました。本講演会では、本学理事長・学長 冲永佳史より帝京・ハーバードプログラムの概要とこれまでの歴史についての講演があり、提携の経緯や帝京・ハーバード国際シンポジウム、冲永フェロー、ハーバード大学内のOkinaga Laboratoryなどについて説明しました。そして、ハーバード大学T.H.Chan公衆衛生大学院教授 イチロー・カワチ氏は、「社会格差と健康、その処方箋～健康格差の是正における橋渡しのソーシャル・キャピタルの役割～」をテーマに、社会格差に基づく健康問題への指摘とその解決策に関する特別講演を行いました。本講演会には学内外800名近くの来場およびオンライン参加申し込みがあり、講演後は時間が足りないほどの質疑や活発な議論が交わされ、盛況なうちに閉会となりました。



帝京・ハーバードのあゆみ

1993年	学術提携と帝京・ハーバードプログラム開始
1994年	第1回帝京・ハーバードシンポジウム開催
1996年	冲永荘一初代学長に「ジョン・ハーバード・フェロースhip」授与
2009年	帝京大学附属病院 新病院開院記念 第7回帝京・ハーバードシンポジウム開催
2010年	帝京大学に公衆衛生専門職大学院を創立するための協力合意
2012年	第1回ハーバード特別講義(以後、毎年開催)
2016年	帝京大学50周年記念行事 第10回帝京・ハーバードシンポジウム開催
2017年	ハーバード大学シンポジウム「医療と公衆衛生における女性の進出」
2023年	学術提携30周年記念 第12回帝京・ハーバードシンポジウム開催



ハーバード大学 Neil L.Rudenstine 総長(右)と帝京大学 冲永荘一総長(左・当時)による2大学間の学術締結(1993)



冲永佳史学長(左)とハーバード大学 Julio Frenk 公衆衛生大学院学長(右)、帝京大学に公衆衛生大学院を創立するための協力合意(2010)

本学は海外100の大学および機関と大学間交流協定あるいは部局間交流協定を結んでいます。留学プログラムや共同研究の多くが協定をもとに行われています。

本特集では、2023年度に交流があった海外提携校の中から交流の一部を紹介します。

マヒドン大学の学生が本学医療技術学部で研修を実施

2023年5月8日(月)～19日(金)、マヒドン大学(タイ・バンコク)の学生4名が、医療技術学部臨床検査学科で研修を行いました。研修中は、同学科の講義・実習に参加し、医学部附属病院を見学しました。また、学生と意見交換を行ったり、学生有志が休日に東京を案内したりと交流を深めました。本学の学生にとっても、英語による発表や案内を行うことで英語の重要性を再認識ただけでなく、海外の臨床検査の状況にふれることで今後の勉強への意欲の向上につながりました。最終日には、同学部長 滝川一から修了証が授与されました。



ヴォー保健科学大学との相互交流プログラムの実施

【受入プログラム】

2023年6月26日(月)～7月7日(金)、板橋キャンパスにてヴォー保健科学大学(HESAV・スイス連邦国ヴォー州)の短期留学生受け入れプログラムを実施しました。本プログラムでは、同大学の診療放射線学科に在籍する学生9名と教員2名が来学し、本学医療技術学部診療放射線学科にて「日本の医療制度」「CT、MRIの現状」を始めとする複数の講義を受け、医学部附属病院の施設見学および病院実習を行いました。また、福島第一原発の視察および放射線機器を製造するキャノンメディカルシステムズ株式会社の工場見学や、教員・学生との文化交流など、多岐にわたるプログラムを実施しました。プログラム終盤には駐日スイス大使館(東京都港区)で留学生、本学学生がそれぞれ駐日スイス大使へ研修報告を行いました。報告会後の立食パーティーでは、参加者が和やかに交流を深め、相互に実施している留学生受け入れプログラムの意義深さや、より一層の交流の深化について意見を交わしました。



【派遣プログラム】

2023年10月7日(土)～20日(金)、医療技術学部診療放射線学科の4年生9名と3年生1名、同学部学科の教員2名が、ヴォー保健科学大学(HESAV・スイス連邦国ヴォー州)にて、放射線技術学研修を行いました。今回の研修は、前述の同大学の学生を受け入れて行われた放射線技術学研修の相互プログラムとして実施されました。本プログラムでは、スイス医療の現状や放射線教育について講義を受けました。また、日本国内では経験できる機会が少ない放射線技術や実践的な実習を、2～3名のグループにわかれて現地の医師や診療放射線技師の指導のもとローザンヌ大学病院(CHUV)にて実施しました。University Center of Legal Medicine (CURML)では、法医学や死亡時画像診断を学び、欧州原子核研究機構(Conseil Européen pour la Recherche Nucléaire; CERN)にて加速器の見学も行いました。約2週間の研修期間でしたが、参加した学生たちは、今まで授業で学んだ知識を十分に駆使して、最終日には英語で成果発表を行うほどに成長するなど、大変充実した研修となりました。





Ⅱ. 主な国際交流活動

1. 特集「海外提携校との交流」

南カリフォルニア大学の留学生を迎えて、 帝京国際サマースクールを実施

2023年7月1日(土)～8日(土)、大学院公衆衛生学研究科では帝京国際サマースクールを実施しました。学術提携校である米国・南カリフォルニア大学医学部国際保健専攻の大学院生を3年ぶりに迎え、本学学生とともに英語による講義を対面で行いました。同研究科教授 中田善規による Healthcare Management では、主に医療機関での組織マネジメントをテーマに講義を行いました。リーダーシップやコミュニケーションなど、マネジメントに関係する主要なトピックについて学んだ後、ケーススタディーを用いたグループワークやディスカッションを行い、日米の学生で議論しました。同研究科准教授 井上まり子による Universal Health Coverage(UHC) and Aging Society のコースでは、日本の保健医療システムとともに世界的な政治課題でもある UHC の概要を学び、世界で迎える高齢化社会の中での UHC について学習しました。同講義では、都内の保健所・保健センターや特別養護老人ホームにご協力いただき、フィールド訪問などのアクティブな学びの機会を得て、日本の公衆衛生に関する理解を深めました。



義守大学の教員と学生が 研修のため本学に訪

2023年8月4日(金)および9日(水)、本学の学術提携校である義守大学(台湾)の医学部中医学科の教員1名と学生5名が8月中の一月間を日本の医療事情等を学ぶ研修目的で来日し、研修先のひとつとして本学八王子キャンパスと板橋キャンパスの施設を見学しました。

八王子キャンパスでは、スポーツ医科学センターでトレーニングや障がいからの復帰のための最新設備を見学し、医真菌研究センターでは、同センター教授 榎村浩一らによる講義と施設の見学を行いました。心理臨床センターでは、施設見学と共に、同センター長の文学部心理学教授 元永拓郎および実習中の本学大学院生らと交流しました。

また、板橋キャンパスでは、シミュレーション教育研究センターにおいて、医学部救急医学講座教授 金子一郎による救急救命にかかわるシミュレーション授業を受け、医学部附属病院の救急救命施設を見学しました。

同大学の学生からは、どの施設でも積極的な質問が寄せられ充実した研修となりました。



アダムソン大学学長らが 本学に来訪

2023年5月19日(金)、本学の学術提携校であるアダムソン大学(フィリピン)の学長 Marcelo V. Manimtim 氏、同副学長 Andrew S. Bayal 氏、同経営学部 長 Ruben M. Nayve氏、同交流室長 Maruja S. Padre Juan氏が本学に来訪されました。本学は2016年から同大学と協定を結び、現在は本学の経済学部と外国語学部で留学プログラムを実施しています。

当日は板橋キャンパスにて本学理事長・学長 沖永佳史との懇談を行い、その後八王子キャンパスに移動して教員との交流やキャンパス視察をしました。同大学からはフィリピンの特産物である皿の贈呈もありました。



パナメリカナ大学の マリオ・マシアス・サルセ教授による 講演会・文化講座実施

2023年6月12日(月)～16日(金)、学術提携校であるパナメリカナ大学(メキシコ)の国際学部教授 マリオ・マシアス・サルセ氏が八王子キャンパスを訪問しました。本学は2015年から同大学と交流を開始し、現在外国語学部と理工学部で交換留学プログラムを実施しています。今回は1週間のキャンパス滞在の中で外国語学部外国語学科スペイン語コースの授業やセミナー、イベントを実施しました。

6月14日(水)は、「メキシコ文化の魅力 歴史・食・音楽」と題した講演会を行いました。マヤ文明やアステカ文明などメキシコの古代文明の紹介から始まり、とうもろこしを使ったソペスやタコスなどのメキシコ料理や、「レレ」と呼ばれるメキシコ中で売られている人形、メキシカンプロレス「ルチャ・リブレ」、「死者の日」に代表されるメキシコの死に対する考え方など、幅広くメキシコの文化について講演を行いました。6月15日(木)は、Teikyo Language Commons(Telaco)にてメキシコ文化講座を実施しました。メキシコの人びとの結婚観やメキシコの料理などがスペイン語と英語を交えて紹介され、学生たちはマシアス教授と近い距離でコミュニケーションをとることができました。6月16日(金)は、Telaco でメキシコ料理のクッキングクラスを実施し、ソペスを作って試食しました。ソペスはとうもろこしの粉を練って作ったトルティーヤの上に、インゲン豆のペーストと鶏肉、トマト、タマネギで作ったソースをのせたメキシコ伝統の料理です。当日は、Telacoのキッチンスペースでマシアス教授が現地から持参したとうもろこし粉を使って調理し、集まった学生たちはメキシコ料理の味を楽しんでいました。1週間という限られた時間の中で学生たちはマシアス教授と積極的にコミュニケーションを図り、スペイン語やメキシコの文化に対する理解を深めました。



Ⅱ. 主な国際交流活動

2. 国際化推進室

国際化推進室は、本学の建学の精神と教育指針の一つである「国際性」に基づき、本学の国際化をより一層充実すべく2021年4月に、学長直下の組織として設置されました。

次の時代を見据え、学生、教員、職員ひとりひとりが国際化に携わり、国際化が日常化し、本学の教育・研究・仕事の必ずどこかでグローバル社会と結びついていく、そんな大学にするために、国際化推進室はこれからも取り組みを拡充・強化していきます。

NAFSA2023ワシントン D.C. 大会への初参加

2023年5月29日(月)～6月2日(金)、米国・ワシントン D.C. で実施された NAFSA(National Association of Foreign Student Advisers)主催の国際教育交流大会に、帝京大学が初出展しました。NAFSA は、世界最大規模を誇る米国の国際教育交流団体です。今大会はNAFSA設立75周年の記念大会で、2018年ノーベル平和賞受賞者ナーディーヤ・ムラード氏の教育の力に関する講演会で幕を開け、世界中の高等教育機関の教育関係者や専門家が約8,500名集まり、国際交流に関する意見交換と知識共有を行いました。本イベントのメインテーマである「Promoting Inclusion in Education Abroad(海外教育におけるインクルージョンの推進)」に基づき、参加者はセミナーやワークショップなどを通して、国際交流や教育に関する最新の動向について理解を深めました。留学や国際的な教育に関するシンポジウムやポスターセッションと同時に、世界の大学などが一同に会するExpoが実施され、新型コロナウイルス感染症流行後の国際活動拡大をめざす担当者と直接交流をはかりました。各国がその特色あるブースで参加する中、本学では日本らしい桜で彩られた JAFSA(国際教育交流協議会)の Study in Japan に出展しました。本学は海外の100大学・機関と提携しており、本大会に参加していた提携大学とパートナーシップ強化について話し合い、多くの新しい大学・機関とも直接面談を行いました。



EAIE2023ロッテルダム大会への参加

2023年9月26日(火)～29日(金)、オランダ・ロッテルダムで開催された欧州最大の国際交流コンベンション EAIE2023(European Association for International Education)に帝京大学が出展しました。本コンベンションは、100を超える国々から2,600以上の大学・高等教育機関関係者が参加し、コロナ禍が明けて参加者数は約6,700名と、昨年の6,300名を上回る規模となりました。

本コンベンションのメインテーマは、港湾都市ロッテルダムでの開催にちなみ「Connecting currents(流れをつなげる)」としており、このテーマに沿ってコロナ後に再開されたさまざまな国際交流や国際教育の流れをつなげるセミナーやポスターセッションが実施され、世界の国際交流の最新の動向について、貴重な情報を得る機会となりました。本学は多くの大学と面談を行い、すでに協定を締結している大学との関係強化や新たな大学との提携に向けた協議など、多数の情報交換を行いました。



APAIE2024パース大会への参加

2024年3月5日(火)～7日(木)、オーストラリア・パースで開催されたアジア太平洋地域国際交流コンベンション APAIE2024 (Asia-Pacific Association for International Education) に帝京大学が出展しました。本コンベンションは、アジア太平洋地域を中心に世界中の大学・高等教育機関が参加する大会で、APAIE2024では約280のブース、2,000名以上の参加者が集まりました。

本コンベンションのメインテーマは、「Collaborating for Sustainable Impact: Partnerships Across the Asia Pacific」(持続可能な効果を得るための協働～アジア太平洋地域をまたいだパートナーシップ～)としており、このテーマに沿って持続可能な国際交流や国際教育に着目したセミナーやポスターセッションが実施されました。

本学は20校以上の海外の大学と面談を行い、特にアジアの国々と情報交換を行いました。面談では、本学と協定を締結している大学との関係強化に加え、新たな大学との提携に向けて短期留学プログラムや交換留学プログラムについて協議し、さまざまな交流を行う貴重な機会となりました。



2023年度 JASSO 主催 日本留学オンラインフェアへの参加

本留学フェアは、日本を含む157の国・地域の学生が日本への留学や進学を目指し、自分に適した高等教育機関を見つけ、充実した留学生活を送れるよう支援することを目的として、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が主催したものです。日本国内からは国公立大学30校と私立大学43校が参加しました。本学もこのオンラインフェアに参加し、教育プログラムの特色、キャンパスの活動、入試情報、減免・奨学金制度の案内に加え、留学生とのトークセッションを行いました。日本留学を希望する国内外の高校生・大学生や、進路指導に携わる高校等の教員が視聴しました。

グローバルチャレンジセミナー開催

2023年10月12日(木)、本学の学生・教職員を対象に、第2回グローバルチャレンジセミナー「アフリカを語ろう」をオンラインで実施しました。本セミナーは、本学の学生・教職員が、一つの国際的なテーマについて学部や分野を横断して学び、その後のディスカッションを通して、本学の掲げる帝京グローバルコンピテンシーや「グローバル化を日常に」というコンセプトを具現化することを目的としています。今回は「アフリカ」をテーマに取り上げ、本学薬学部教授・山本秀樹より「アフリカの食と健康」について、本学外国語学部外国語学科講師・鵜飼敦子より「アフリカンアート」について講義を行いました。学生・教員・職員が共に「アフリカ」について考え、意見を交換する機会となりました。また、板橋キャンパス、八王子キャンパス、宇都宮キャンパスからそれぞれ参加者が集まり、キャンパス横断的に交流することができました。



オックスフォード大学・沖永ジュニアリサーチフェロー オンライン特別講演会を実施

2023年7月10日(月)、本学の八王子キャンパスにて、沖永ジュニアリサーチフェローとしてオックスフォード大学ワダムカレッジに在籍するナタリア・ドーン氏による特別講演会を実施しました。本講演会は、英国オックスフォードと東京をオンラインでつないで行われました。司会は本学文学部日本文化学科講師 アンドレ・リネペが務めました。

同氏は3年間にわたって沖永ジュニアリサーチフェロー奨学金を受給しており、今回はその研究成果の集大成として「幕末に世界を周った武士 日本初の使節団と彼らがアメリカ人に与えた影響」と題した講演を行いました。1860年の万延元年遣米使節団に通訳として同行した立石斧次郎のエピソードを中心に、使節団の訪米が当時のアメリカ社会に人種差別について考えるきっかけを与えたこと、立石斧次郎がアメリカ人女性の間で大ブームになりアメリカで日本風の商品が流行したことなど、当時の両国間のカルチャーショックが流暢な日本語で説明され、受講者は熱心に聞き入っている様子でした。最後に「立石斧次郎は政治的な影響力がなくても多くの人に影響を与えた。国家間だけでなく庶民同士の交流から歴史を見ることができると」とまとめ、講演会を終了しました。

オックスフォード大学 ワダムカレッジ 沖永ジュニアリサーチフェロー オンライン講演会

**幕末に世界を周った武士
日本初の使節団と彼らがアメリカ人に与えた影響**

7月10日(月)
16:30~17:30
使用言語：日本語

演者
オックスフォード大学ワダムカレッジ
ナタリア・ドーン先生
専門：19世紀の日本史

八王子キャンパスSS23教室 + オンライン
司会：本学文学部日本文化学科
講師 アンドレ・リネペ

✓ 学生・教職員は、専門を問わずに誰でも参加可能！
お問い合わせ：国際化推進室 03-3964-6044
それも、あなたのグローバルコンピテンシー 帝京大学の国際化



Erasmus+(エラスムスプラス)による教職員研修・相互派遣の実施

APAIE2023バンコク大会で交流したトルコ・マルマラ大学から、Erasmus+(エラスムスプラス)を利用した教職員相互派遣の研修について打診を受け、実施をしました。2023年7月18日～20日、マルマラ大学から教職員2名を受け入れ、板橋・八王子・宇都宮の各キャンパスを視察し、国際交流に関する意見交換を行いました。2023年7月17日～21日、本学の板橋・八王子キャンパスの職員2名が、マルマラ大学にて国際交流や教務に関する研修を受けました。

「世界の料理」プロジェクト実施

2022年6月から始まった本プロジェクトは、「グローバル化を日常に」をコンセプトに、本学の板橋キャンパス学生食堂ゴデレッチョにて世界各国の代表的な料理をイベントメニューとして期間限定販売する企画です。主に、本学の学術提携校がある国の料理を選んでいきます。

第3弾 タイ編

2020年11月にはタイのマヒドン大学と医療技術学部間で学生交流のための協定を締結し、2022年8月には本学医療技術学部臨床検査学科の学生が、タイのマヒドン大学を訪問し交流会に参加しました。

また、2023年5月7日～20日にはマヒドン大学の研修生が本学医療技術学部に実習に訪れて相互の交流が発展していることから、第3弾はタイ料理を提供しました。



第4弾 台湾編

2023年7月10日(月)～14日(金)に行われた本プロジェクト第4弾は、台湾の滷肉飯(ルーローハン)と専用デザート(豆花(トウファ))を販売し、本学と台湾の繋がりをアピールしました。本学は、台湾の2つの大学と提携を結んでいますが、中でも義守大学は、本学の外国語学部全員留学制度の留学先の1つとなっています。医療分野では、義守大学で開催された国際シンポジウムに、スピーカーの1人として本学医療技術学部診療放射線学科の教員が参加しています。また、台北医学大学とは、医療技術学部看護学科の交流や、大学院公衆衛生学研究生の学生交流もあり、幅広い分野で交流しています。



第5弾 ポストン編

2023年10月16日(月)～20日(金)、本プロジェクト第5弾は、本学とハーバード大学の学術提携30周年を記念して、米国・ボストン料理であるクラムチャウダーを、ハンバーガー、ブルドポークサンドの2種類とセットで販売しました。

本学とハーバード大学は、1993年に学術提携を結んで以来、30年にわたり、日本の保健医療分野の発展と人材育成に寄与してきました。現在は、ハーバード T.H.Chan 公衆衛生大学院を中心に交流があり、帝京・ハーバードシンポジウムやハーバード特別講義の実施など、長きにわたり学生や教員との関係を深めています。イベントメニューはそれぞれ1日50食限定でしたが連日完売となり、たくさんの方にお楽しみいただけました。



第6弾 メキシコ編

2023年12月18日(月)～22日(金)、本プロジェクト第6弾は、アンケートでリクエストが多かったメキシコ料理を取り上げました。チリコンカンとタコスのワンプレートとボソレ(メキシコの伝統的なスープ)をセットで販売し、連日たくさんの方にお楽しみいただきました。

本学はメキシコのパナメリカナ大学と2015年から交流を開始し、八王子キャンパス・宇都宮キャンパスの交換留学先として、学生の派遣・受け入れを積極的に行っています。2023年6月には、パナメリカナ大学国際学部教授 マリオ・マシアス・サルセ氏が本学八王子キャンパスへ来訪して講演会やメキシコ料理のクッキングクラスを実施することで、メキシコの文化を学ぶとともに、同大学との交流を深める機会を提供しました。



3. 各キャンパス

各キャンパスの代表的な活動を紹介します。

板橋キャンパス

基本情報

設置学部

医学部、薬学部、医療技術学部

設置研究科

医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科



板橋キャンパスには医療系学部が集まっており、未来の医療人を養成しています。キャンパス内には医学部附属病院があり、充実した設備のもと、総合的かつ実践的な先端医療を学ぶことができます。教育では、Bedside Clerkship(BSC)などを含む医療に特化した短期留学の実施や、学科のスケジュールに沿った独自の短期海外医療研修プログラムが展開されています。研究についても世界の研究者との共同研究が行われています。

教育活動

ベトナム国立小児病院およびハノイ医科大学、国際協力機構(JICA)ベトナム事務所と学生交流プログラムを実施

2023年7月17日(月)～21日(金)、医学部5年生の衛生学公衆衛生実習を5日間にわたりベトナムにて実施しました。本実習は「帝京大学とベトナム国立小児病院およびハノイ医科大学間においての単位互換協定の締結」を基に、世界やアジアで発生している感染症の実状を視察して今後の医療活動に役立てることや、国際的視野にたった医療人をを目指すことを目的とし、主に臨床実習、国際保健、予防医学、医療システム・アクセスについての学習を行いました。

実習先のベトナム国立小児病院では、各診療科・部門および研究室の見学、臨床実習を行い医療機器やベトナムの医療事情等について学びました。ハノイ医科大学では、遺伝子タンパク質研究センターを視察し、感染症専門家による地域的特性に関する講義を受けて理解を深めました。また、JICAベトナム事務所では、ベトナムでの保健医療協力・支援活動およびJICA一般に関する取り組みについて知見を広めました。

本実習を通して感染制御や国際医療、ベトナムの医療事情について学び、多角的な視点から理解を深めることができました。



医療技術学部の学生がラオス人民民主共和国で行われた救急隊員研修プログラムに参加

2023年8月6日(日)～12日(土)、ラオス人民民主共和国の首都ビエンチャンにて JICA 草の根技術協力事業の一環として行われた第3回救急隊員研修プログラムに、医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コース講師 高山祐輔が病院前救護の専門家として参加し、同コースの学生10名が同行しました。

ラオスでは、救急車による患者搬送をボランティア団体が担っており、同行した学生と同世代の男女で主に構成されています。本学学生は、本学で学ぶ知識・技術についてラオスの救急隊員と共有し、お互いに教えあうことを通して、自分たちが学ぶ意義や日本の環境などについて深く考えるきっかけになりました。また、今回の研修プログラムでは、日本語とラオス語の間にある大きな言語の壁をリアルタイム翻訳技術を駆使することで、言語の壁をとてついても低いものにできました。



医学部の衛生学公衆衛生実習報告会を実施

2023年10月3日(火)、板橋キャンパスにて関連教員参加のもと医学部5年生による衛生学公衆衛生実習報告会を行いました。

2023年7月に実施したベトナムでの臨床実習に参加した学生がスライドを使用した報告を行い、印象に残ったことや感想などを話しました。本実習では、ベトナムの医療の現状や環境、文化の違い、語学力の大切さを強く感じることができ、想像していたものや情報とは違う現状に見方が変わり、あらためて大きな学びを得ることができました。

今回の経験をもとに学生それぞれが視野を広げ、他国と日本の医療それぞれにおける課題や解決策について考えるいい機会となりました。



研究活動

キルギス国立大学の幹部教員が視察研修会のため 本学薬学部・医学部附属病院薬剤部に来訪

2023年4月20日(木)、キルギス国立メディカルアカデミー大学副学長 グルミラ氏、同大学薬学部長 サイラグル氏、ジャララバード大学薬学科長 バクトグル氏の3名が、JICA「キルギス国薬剤師継続教育及び国家試験開発事業」の一環として日本における薬学部教育や病院薬剤師業務・教育を視察研修するため、帝京大学薬学部および本学医学部附属病院薬剤部に来訪しました。

はじめに、本学薬学部長である教授 楯直子による「6年制薬学部教育と薬学教育モデル・コアカリキュラム」と本学医学部附属病院薬剤部長を務める同薬学部教授 安野伸浩による「病院における薬剤師業務と教育」の講演および総合討論を行いました。日本の薬学部教育や病院薬剤師の業務・教育について情報共有すると同時に、両国における教育や業務の差異について互いに知る機会となりました。また、昼食・情報交換会でも活発に情報提供や今後の薬剤師教育についての意見交換が行われました。その後、本学医学部附属病院薬剤部の病院薬剤師業務の現場を見学するなど、本学薬学部や薬剤師教育について理解を深めることができる視察研修会となりました。



その他の活動

ポルトガル大使が本学を訪問

2023年8月31日(木)、駐日ポルトガル大使 Vitor Sereno(ビートル・セレーノ)氏、同大使館のTiago Maurício(ティアゴ・マウリシオ)氏が本学沖永佳史理事長を訪問、本学からは中田善規グローバルオフィス委員会委員長、浅山敬同委員会副委員長、松本美奈客員教授も同席し、ポルトガル共和国と本学との交流について意見交換を行いました。意見交換後に、板橋キャンパスのシミュレーション教育研究センターや多目的実習室を見学し、実際にシミュレーターを使った心肺蘇生の模擬体験が行われました。



本学学生が国際学生フォーラムで日本代表として口演発表を行いました

2023年10月13日(金)・14日(土)、韓国郡山市にて第61回大韓臨床病理士協会総合学術大会国際学生フォーラムが開催され、木下真唯子(医療技術学部1年)が日本代表として口演発表を行いました。本フォーラムは、日本臨床衛生検査技師会と韓国の大韓臨床病理士協会が相互交流の一環として実施しています。日本臨床衛生検査技師会では、本フォーラムで口演発表する学生を全国から募集・選抜しており、本学からは木下さんが応募し、採択数わずか2名の狭き門を突破して見事日本代表に選出されました。

今年のテーマは、“Re-creation from Innovation” と、かなり難題ではありましたが、臨床検査技師のタスクシフトによる仕事の多様化と、それにとまどう1年次学生の未来へ向けた決意を英語で発表し、質疑にも堂々と対応していました。口演発表以外にも臨床検査技師をめざす海外の学生と交流する機会もあり、有意義な内容となりました。



台湾の陳教授がディープラーニングについての講演を実施しました

2024年1月23日(火)、本学医療技術学部診療放射線学科の授業において、元義守大学診療放射線学科教授で本学客員教授の陳泰賓が講演を実施しました。陳教授は、台湾でのAI研究において著名な教授で、本学と義守大学は、2014年に学術交流協定を締結して以来、義守大学で開催されたシンポジウムに本学学生が参加するなど交流しています。

当日は、本学医療技術学部診療放射線学科教授 岡本孝英の概要説明後、陳教授から英語でディープラーニングについての講演があり、続いて本学医療技術学部診療放射線学科助教 松島明里による解説が行われました。学生は、不慣れな言語にも関わらず熱心に講演を聴講しており、質疑応答では学生からたくさんの質問が投げかけられました。



八王子キャンパス

基本情報

設置学部

経済学部、法学部、文学部、外国語学部、教育学部、医療技術学部

設置研究科

経済学研究科、法学研究科、文学研究科、外国語研究科、教職研究科



八王子キャンパスは多摩丘陵の豊かな自然を生かした高台に位置し、構内のあちこちからのぞむ景色が美しいキャンパスです。「SORATIO SQUARE」には、一般教室のほか、観覧席を備えたアリーナや、食堂が設置されています。また、75万冊の蔵書を備えたメディアライブラリーセンターをはじめ、国際交流のための「OUCHI COMMONS」や語学学習専用施設「Teikyo Language Commons」など、最新の施設と設備が整備されています。

教育活動

近畿大学と共同でベトナム市場におけるアース製薬製品のマーケティング戦略を提案する海外研修プログラムを実施

2023年8月20日(日)～8月26日(土)にかけて、近畿大学との共同キャリア教育プログラムの一環として、ベトナムでの海外研修を実施し、学生がアース製薬株式会社(以下、アース製薬)の製品「モンダミン」の市場開拓などの課題に挑戦しました。

本学と近畿大学は、2018年に共同キャリア教育プログラムに関する協定を締結し、毎年合同でベトナムでの海外研修プログラムを実施しています。6回目となる今年は、八王子キャンパスに在籍する学生12名と、近畿大学の学生14名の合計26名が、7つの混合グループを形成し、ホーチミン市外国語情報技術大学の学生と協力して、ホーチミン市での市場視察やアンケート調査等を行い、アース製薬の製品「モンダミン」のベトナムにおけるシェア拡大や市場開拓といった課題解決に取り組みました。

研修プログラムの総括として、帰国後の9月6日(水)、アース製薬本社にてベトナムでのマーケティング戦略のプレゼンテーションを行いました。



韓国人留学生との交流会「リトルコリア」を実施

2023年5月31日(水)、八王子キャンパスのオウチコモンズ(OUCHI COMMONS)にて、韓国人留学生との交流会「リトルコリア」を実施しました。本イベントは、留学生をサポートする学生団体「国際交流アシスタント」に所属する学生が主体となり、韓国文化を通じた韓国人留学生との交流を目的に企画され、当日は留学生と日本人学生合わせて計48名が参加しました。

冒頭、韓国人留学生がそれぞれ韓国アイドルの変遷・観光地・食文化・韓国と日本の大学生生活の違いについて発表し、その後はグループに分かれて自己紹介ゲーム・フリートークなどの交流を行いました。フリートークではどのグループでも、まるで以前から友人であったかのような盛り上がりを見せていました。企画に参加した韓国人留学生の多くは、交換留学制度を利用して本学に留学しており、流暢な日本語を話せる留学生が多く、日本人学生も安心して話しかけている様子うかがえました。韓国留学や文化に興味がある日本人学生が、韓国人留学生と交流することでさらに韓国への興味関心が深まり、国籍を超えた友人づくりのきっかけになりました。

留学生との交流イベントで書道体験を実施

2023年6月22日(木)、八王子キャンパスの OUCHI COMMONS にて、留学生と日本人学生の交流を目的に書道部とのコラボ企画として、国際交流アシスタントが書道体験を企画し、実施しました。

当日は書道部員の指導で、書道をする際の姿勢や筆の持ち方、筆の運び方を学び、横線、縦線、払いの練習をした後、書道の基本技法8種すべてが含まれる「永」の字を練習しました。書道部員が一人ひとり丁寧に指導し、参加した約20名の学生たちは書道体験を楽しんでいる様子でした。最後におのおのが好きな文字を清書し、台紙に貼って個性あふれる作品が完成しました。

国際交流イベント帝京グローバルフェスタを実施

2023年10月14日(土)・15日(日)、八王子キャンパスの大学祭「青春祭」で、国際交流イベント帝京グローバルフェスタを実施しました。

青春祭当日は、国際交流アシスタント学生の出身国である中国やベトナム、韓国、マレーシア、ルーマニア、フランス、エルサルバドル、ハンガリーの留学生と日本人学生が、海外の文化や言葉に触れるさまざまなイベントを企画しました。各国のブースでは、留学生が母国で幼いころ遊んでいたゲームを実施しました。日本では経験したことのない初めてのゲームに子どもたちは興味津々で、楽しそうにチャレンジしていました。また、各国の言葉で留学生とじゃんけんをするスタンプラリーも行い、留学生は参加した子どもたちとの交流を深めました。誰にでも馴染みのあるじゃんけんが、国によって言葉やグーチョキパーの表現が異なることを知るきっかけとなり、子どもたちは学びながら表現の違いを楽しんでいました。コロナ禍後に行う初めてのイベントでしたが、2日間で300名以上の方の参加があり、盛況のうちに終了しました。

第2回学長杯 留学生日本語プレゼンテーションコンテストを実施

2023年12月11日(月)、八王子キャンパスにて、第2回学長杯 留学生日本語プレゼンテーションコンテストを実施しました。本コンテストは留学生の日本語学習成果発表の機会を提供し、留学生の日本語能力の向上だけでなく留学生と日本人学生が共同学習の場として異文化理解を深めることを目的としており、留学生スピーカーと日本人学生サポーターがペアとなり、プレゼンテーションの準備を進めてきました。

第2回目となる今回は「私だけが知っている日本の楽しみ方」をテーマに、書類選考を通過した留学生スピーカー10名が、自身の経験から得た考えや提案について、言葉選びから表情、身振り手振りや声の大きさなど工夫を重ねた豊かな表現方法で堂々とプレゼンテーションを行いました。

English Café を実施

前期と後期に計9回、日本人学生と留学生が英語で交流をする English Café を OUCHI COMMONS にて実施しました。

日本人学生の企画のもと、語学力に自信がない学生でも気軽に参加できるよう、留学生がサポートしながらゲームやフリートークを行いました。毎回15～20名程度の学生が参加し、英語を話す機会になるだけでなく、共通の話題を通して意気投合し、国籍を超えて友人を作る機会にもなりました。リピーターとして複数回参加をした学生もあり、学内で英語を使う機会として積極的に交流している様子が伺えました。

また、短期研修に参加予定の学生にも実施し、事前に作成したテキストを利用しながら自己紹介や趣味、日本のおすすめの観光地について紹介をしました。



その他の活動

「狂言」を知るワークショップを実施

2023年10月18日(水)、八王子キャンパスにて、世界の舞台で活躍する和泉流狂言師である小笠原由嗣氏を講師としてお招きし、日本の伝統芸能「狂言」を知るワークショップを実施しました。

ワークショップには、留学生や日本人学生、教職員約50名が参加し、小笠原氏による日本芸能の歴史など基礎知識の解説を受けたほか、扇を使って人間の言動を表現する場面を見学しました。また、狂言体験として笑いの感情表現に挑戦し、参加者は想像力を膨らませ、体全体で笑いを表現し、表情豊かに取り組んでいました。参加した留学生からは「日本に留学している間に、一度は日本の伝統芸能の舞台を見てみたいと思っていた。今回、学内で伝統芸能に触れることができ、大変有意義なワークショップだった」との声がありました。見る人の想像力を掻き立て、声や扇子、動きだけで表現をする日本伝統芸能の豊かさを知る機会となりました。

宇都宮キャンパス

基本情報

設置学部

理工学部、医療技術学部、経済学部

設置研究科

理工学研究科、経済学研究科、医療技術学研究科



春の桜が美しい、宇都宮の緑豊かな高台に位置するキャンパスは、東京ドーム6個分の広大な敷地を誇り、主に理工学部の実習室などが整う各学科棟が、整然と配置された機能的な構内です。専門分野に特化した施設、最新の研究設備が充実しています。

教育活動

留学生交流会を実施

9月15日(金)、宇都宮キャンパス学生食堂において、留学生交流イベントのカラオケ・ダンス大会と留学生企画によるクイズ大会が行われました。国籍や文化を超えて参加者同士が楽しめるプログラムが用意されており、カラオケ・ダンス大会では、学生がそれぞれ好きな曲やダンスを披露し合い、音楽を通じて交流を深めました。クイズ大会では、留学生が自国の文化や歴史に関する問題を出題し、参加者がその知識を試す形式で行われました。教職員も参加して楽しくクイズに参加することができました。このイベントは、コロナ禍で中断されていた交流活動の再開のきっかけとなりました。



留学生交流バスツアー

9月17日(日)、栃木県那須町のりんどう湖ファミリー牧場において、留学生と日本人学生、教職員を含む約70名が参加する交流イベントを実施しました。このイベントは、留学生と日本人学生の交流を促進し、キャンパスの国際化を推進することを目的としています。参加者たちは、自然豊かな施設でのアクティビティを通じて親睦を深め、日常では得られない異文化交流の機会を楽しみました。特に、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の対話が活発に行われ、多様な視点を共有することで、相互理解が一層深まりました。このイベントは、キャンパスの国際化に向けた一歩として、大きな意義を持つものでした。

栃木県立宇都宮北高等学校の生徒との交流

9月13日(水)、宇都宮北高等学校高校生と本学の留学生との英語による交流会が開催されました。本キャンパスと高大連携協定を結んでいる同校から1年生約300名が参加し、本学の21名の留学生と8クラスに分かれて活動が行われました。各クラスでは、2名の留学生が自国の紹介を通じて生徒たちとの交流を深めました。異なる文化や国際的な視点に触れることで、新たな学びと刺激を得る機会となりました。その後、国際交流部と英語によるアクティビティとして、生徒が作成した英語カルタを使ったゲームが行われました。楽しみながら英語を実践的に使う機会を得ることができ、コミュニケーションを通じて、異文化理解と英語力の向上を図ることができました。



国際交流イベント：バドミントン大会の開催

2024年1月20日(土)、宇都宮キャンパスの体育館にて、留学生と日本人学生の交流を目的としたバドミントン大会を開催しました。参加者は留学生と日本人学生を合わせて約30名がペアを組んでダブルスの試合を行いました。初めのうちは緊張した様子が見られましたが、試合を重ねるごとに会話が弾み、次第にリラックスした雰囲気が生まれました。このイベントを通じて、異なる文化背景を持つ学生同士の絆が深まり、自然な交流が促進されました。



その他の活動

留学生保護者説明会(オンライン)

2023年8月26日(土)、宇都宮キャンパスにて、中国籍留学生の保護者を対象とした2回目のオンライン保護者説明会を実施しました。この説明会には、事務部に加え、日本語教育を担当するリベラルアーツセンターの教員も参加し、宇都宮キャンパスおよび大学での学びに関する詳細な説明を行いました。保護者の方々からは、大学の教育内容やサポート体制に対する高い関心が示され、多岐にわたる質問が寄せられました。質疑応答の時間を通じて、大学と保護者との信頼関係がさらに深まったことが伺えました。

留学生と地域の交流活動：豊郷まつりへの参加

11月12日(日)、宇都宮キャンパスの留学生18名と日本人学生5名が、豊郷地区で開催された豊郷まつりにボランティアとして参加しました。このイベントは、地域住民との交流を深める絶好の機会となりました。留学生たちは、来場者の案内誘導やステージの準備、飲食物の模擬店の手伝いなど、様々な役割を果たしました。また、自国の料理を販売する模擬店を出店し、地域の方々と文化を共有する場を提供しました。この交流を通じて、地域との結びつきを強化し、異文化理解を深めることができました。

宇都宮市主催多文化共生フォーラムへの参加

2024年2月11日(日)、外国人市民と日本人市民のワークショップによる交流を通して、多文化共生の理解を促進することを目的とした宇都宮市主催の多文化共生フォーラムに、パネリストとして本学留学生が参加しました。「みんなではなそう多文化共生のまち宇都宮」のテーマのもと、母国での過ごし方や宇都宮市で生活を通じて感じていることを話しました。留学生と宇都宮市民にとって、多文化共生への理解を深める貴重な機会となりました。



福岡キャンパス

基本情報

設置学部

福岡医療技術学部

設置研究科

保健学研究科



福岡キャンパスでは医療系学科が集まっており、最新の設備のもと、地域医療を支えるための高度な専門知識を持つ医療人材を育成しています。福岡医療技術学部では、希望者制でアメリカコロラド州デンバーを拠点とした海外研修を実施しています。現地での研修・見学を通して、日本とは異なる視点から医療を体験できる機会があります。

教育活動

モンゴル国立大学の原子核研究センターと福岡キャンパスの共催イベントを実施

2023年5月24日(水)、モンゴル国立大学の原子核研究センターと福岡キャンパスで共催した「核データ科学に関する共同ワークショップ」に、本学福岡キャンパスの学生が参加しました。

本学大学院保健学研究科の学生2名が「磁気共鳴画像に基づくラジオミックスの安定性評価について」「荷電粒子飛跡画像解析による吸収線量計測について」の研究発表をオンラインで行ったうえでモンゴルを訪問しました。また、モンゴル国立大学の原子核研究センターを訪れた本学福岡医療技術学部の4年生4名が「帝京大学で行われている授業」や「キャンパスライフ」「大牟田市のイベントやグルメ」などについて紹介しました。モンゴル国立大学の学生による学校紹介などもあり、モンゴルの文化を知る貴重な機会になりました。



本学学生が大牟田市近隣在留の外国人医療従事者との交流会に参加

2023年7月18日(火)、10月29日(日)、11月21日(火)の計3回、福岡キャンパスにて本学福岡医療技術学部の学生と大牟田市近隣在留の外国人医療従事者との交流会を行いました。本交流会は、海外の医療従事者と交流を図ることで、グローバルな認識を持つ医療人材育成と、日本の国家資格取得をめざす外国人医療従事者の一助になることを目的としています。

本交流会には延べ62名が参加し、骨標本の組み立て、医療用語に関するカードゲームやキャンパスツアーを通じて交流を深めることで、他国の医療従事者の働き方や文化を知る機会となりました。



2023年度 海外医療研修(デンバー研修)

2020年度より中止となっていたデンバー研修を2023年度より再開し、28名が参加しました。学生へ質の高い修学の機会と外国における医療現場を体験し、本学の建学の精神に基づく「国際的視野に立って物事を判断できる人材の育成を目指すこと」を目的とし、医療施設(アドベントヘルス・パーカー病院、クレイグ病院、聖アンソニー病院)や医療系大学(レジス大学、コロラド州立大学)、消防署の見学、解剖実習および文化体験に参加しました。また、現地研修の前後に事前学修を5回、事後学修を4回行い、事後学修では、英語でのお礼状作成や全学生・教職員を対象とした報告会を2日間実施し、参加者が2つのグループに分かれて発表をしました。参加者を対象とした事後アンケートでは、ポジティブなコメントが多くあり、高い満足度を得ることができました。

2023年度 春期短期研修(イギリス・ロンドン)

八王子キャンパスが実施している2023年度イギリス春期短期研修に、診療放射線学科2年生と医療技術学科3年生の計2名が参加しました。2024年3月7日(木)～3月30日(土)までの23日間を、他キャンパスの学生と共に過ごし、新しい友人との出会いや充実した内容の研修を心から楽しんだようです。参加者たちは、英語の授業だけでなく、ロンドンの町で買い物や外食といった日常生活を体験し、ミュージカル観劇や様々な施設への訪問見学を行うなど、多彩な異文化体験をすることができ、本当に良かったとコメントしていました。参加者にとって、満足度の高い研修となりました。

その他の活動

アヴィセンナ国際医科大学学長の来訪について

2023年4月19日(水)、キルギス・アヴィセンナ国際医科大学の学長が、日本の医療系大学の視察のため福岡キャンパスに来訪されました。当日は、本学福岡医療技術学部理学療法学科、作業療法学科、看護学科、診療放射線学科、医療技術学科救急救命士コース、医療技術学科臨床工学コースの設備や実習・講義の様子などを見学し、医療人を育成する教育環境および教育内容について意見交換を行いました。また、学内見学終了後に行った国際交流に関する意見交換会では、学生に海外の医療事情について学修する機会を提供するために短期海外研修を行いたい旨の意見があり、キルギスとの今後の国際交流の発展が期待されます。

ザンビア共和国(ルサカ)

ザンビア大学附属教育病院(附属国立心臓血管外科病院)における教育および実技指導について

医療技術学科教授 廣浦学と助教授 輪内敬三の2名で、2023年11月26日(日)～12月10日(日)に、ザンビアを中心に医療支援活動を行っている特定非営利活動法人TICOの依頼を受け、ザンビア大学附属教育病院の心臓外科医育成プログラムに参加しました。このプログラムでは、年間約50例の開心術実施を目標に掲げており、今回は、6症例で、現地スタッフ(看護師)に人工心肺の操作指導を行いました。エイズやマラリアなど、日本ではあまり遭遇しない病を抱えた患者の手術も行われ、ザンビア特有の医療環境下でも、TICOチームの一員として現地スタッフと共に手術を終えることができました。



韓国 浦項工科大学校へ訪問

診療放射線学科講師 牧永綾乃が、2023年11月22日(水)～11月25日(土)にかけて、大学院生1名を同行し、韓国東部の慶尚北道浦項市に位置する浦項工科大学校の物理学科教員との研究打合せおよび情報収集を行うために韓国を訪問しました。韓国が米国、日本に次いで世界3番目に建設に成功した第4世代放射光加速器が設置されている浦項加速器研究所を訪問し施設見学を行いました。学生にとって、今回の韓国訪問は研究者を目指すうえで、またとない機会となりました。



国際交流のための協議を実施(キルギス)

診療放射線学科教授 川村慎二が、2023年9月3日(日)～9月8日(金)にかけて、キルギスを訪問しました。2023年4月に福岡キャンパスに学長が来訪されたAvicenna Bilim International University(ABIU)や医療施設を訪問し、現地の医療に関する情報収集(医療機関の設備および病気や死因などの情報、医療系の大学の教育内容や実習の体制など)や今後の交流について協議を行いました。

国際的な活動に関する講演会

「教員の国際的な活動を推進していくこと」を目的として、FD委員会と国際交流委員会の共催で国際的な活動に関する講演会を開催しました。講演は全教職員を対象とし、ザンビア共和国で医療支援を行っている医療技術学科教授 廣浦学から「ザンビア共和国における医療支援について」、海外の大学に短期留学を行った診療放射線学科准教授 亀澤秀美から「ハーバード大学への短期留学体験記」、海外の大学で短期研修と共同研究を行った診療放射線学科助教授 関川祐矢から「コロラド州立大学での短期研修と共同研究について」の講演が行われました。

帝京大学グループダラムキャンパス



基本情報

所在地

Lafcadio Hearn Cultural Centre, Mill Hill Lane, Durham, DH1 3YB, UK

設立

1990年

帝京大学が英国北東部に位置するダラム市に1990年に開設したキャンパス。日本の大学が海外に所有している数少ないキャンパスの一つです。本学は、同市内の名門ダラム大学とも学術提携を有しています。

ダラムキャンパスはダラム大学に隣接しています。ダラム市は学生の街で治安もよく、ダラム大聖堂などの世界遺産や緑に囲まれた環境にあります。ダラム大学とはスポーツ交流やダラム大学生のランゲージパートナー制度など、教員・学生レベルでの交流機会が多く、本格的な英語を習得できます。

同キャンパスには本学の職員も在住しているため、学習や生活面でのサポート体制も十分に整っており、留学生には安心な環境を提供しています。また、ダラム留学中に受講する科目は最大22単位まで取得できるため、休学することなく留学を経験できます。

主な活動

ダラムキャンパス春期と秋期の定期留学コースに帝京大学および帝京平成大学から留学生を受け入れている他に、外国語学部2年次全員留学の派遣先にもなっています。また2023年4月からは外国語学部国際日本学科2年次の語学・研修プログラムの受け入れを開始しています。

奨学特待生コースがあることもダラム留学の特徴であり、一定の英語力と学業成績を修めている学生に対して、奨学金を支給して留学を促進する制度を設けています。

学習面では能力別クラスに分かれ、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の向上を目指して、英国人講師による本格的な指導を受けることができます。留学期間には定期的に TOEIC や IELTS などの語学試験を受験して実力レベルを測定します。また専門家によるゲストレクチャーを行っており、英国文化や時事問題の分野の講義を通して英語力の向上に役立てています。

生活面では留学生は滞在中、ダラム大学の4つのカレッジに所属することになり、各カレッジ内で食事やクラブ活動や各種行事に参加をしながら、ダラム大生とのコミュニケーションを深めていきます。

校外体験では、希望する学生に職場体験プログラムを用意しており、キャンパス近くの保育所や理容室で実際に英国の職場文化に触れながら、英語力のみならず異文化コミュニケーション能力を身につけます。また学校訪問プログラムでは地元の小中学校を訪れて、日本語や日本文化(書道、折り紙、浴衣の着付けなど)を教える体験をしています。

2023年度は、近畿大学と東海大学、そして本学で構成される「私立総合3大学アライアンス」における初の試みとして、「3大学アライアンス ダラム短期研修」を3大学合同で実施しました。このアライアンスは、2021年より本学と近畿大学、東海大学で開始した連携であり、個別大学の枠組みを超え、総合的な連携協力体制を構築するために行っています。本研修には、本学から4名、近畿大学6名、東海大学2名が参加して、英国にて大学を越えた交流をはかりました。

ダラムキャンパス留学年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◆ダラム春期留学												
◆国際日本学科 語学研修プログラム												
◆ダラム秋期留学												
◆外国語学部全員留学												
◆春期短期留学												

4. センター・研究所

先端総合研究機構

先端総合研究機構(先端総研)は、本学の持つ研究シーズとニーズの価値を高めるとともに、その知見に基づき、社会の発展に貢献し、以って本学の研究力を高めることを目的としています。

帝京大学アジア国際感染症制御研究所(ADC)

帝京大学アジア国際感染症制御研究所は、世界的視野に立った感染症制御に関わる研究・教育を推進するために2013年6月1日に設立されました。本研究所は、アジア諸国との国際交流を行い、感染症制御に関して、国内外の多様な組織との共同研究を通して、グローバルヘルスに貢献することをめざしています。また、患者と医療者が共に安心と信頼に基づいた社会の構築をめざし、新たな視点から、医学、医療、保健の進歩に貢献することを目的としています。

帝京大学医真菌研究センター

医真菌学の発展のための教育および研究を精力的に行っている研究機関です。真菌症の診断・治療法の開発をはじめとし、医真菌学において多岐にわたる研究を行いながら、一方で病原真菌株の収集保存および分譲を行っています。

ヴォー州立大学病院で開催されたシンポジウムで講演を実施

2023年4月27日(木)、帝京大学医真菌研究センター准教授 山田剛が、ヴォー州立大学病院(スイス)で行われたシンポジウム「Mycoses cutanées」に招聘され、「An overview of mechanisms of antifungal drug resistance in dermatophytes(皮膚糸状菌の抗真菌薬耐性機構の概要)」をテーマに講演を行いました。シンポジウムを主催したヴォー州立大学病院はヨーロッパを代表する大規模病院の1つで、20以上の施設を有する敷地内は世界でも有数の総合的な大学病院として知られています。また、ローザンヌ大学(スイス)の生物学部および医学部と緊密な連携関係にあり、医療分野の最前線にあります。

本シンポジウムは、10年以上山田准教授と国際共同研究を行ってきたヴォー州立大学病院・ローザンヌ大学教授 Michel Monod氏の定年退職にあたって企画された記念行事の1つで、Monod教授と縁の深い山田准教授とリエージュ大学(ベルギー)教授 Bernard Mignon氏の2名が招聘されました。講演の中で山田准教授は Monod 教授らとともに解明してきた白癬の中核治療薬、テルビナフィンおよびアゾールに対する原因菌(白癬菌)の薬剤耐性化の仕組みについて概説しました。新種の高病原性白癬菌 *Trichophyton indotineae* が獲得したアゾール耐性機構「薬剤の作用標的分子をコードする遺伝子のタンデムリピート形成による作用標的分子の過剰発現」は、白癬菌を含む病原真菌全体で過去に例のない新たな薬剤耐性機構であり、ゲノムのダイナミックな変化を利用した生物の生き残り戦略として大変興味深いものであることを紹介しました。



帝京大学文化財研究所

本学では、シルクロード総合学術センターと文化財科学研究センターの2つの研究センターを設置し、より幅広く文化財・文化遺産を対象とする学際的な調査・研究を行っています。文系と理系、歴史学と考古学・文化財学、研究と保存と教育が融合一体化した新しいかたちの大学研究所です。設立当初より埋蔵文化財の調査研究を行う部門と、各種分析・保存科学・保存処理を行う文化財科学部門によって構成され、長年社会に貢献してきました。2012年4月からは、本学の研究所として新たに発足し、埋蔵文化財の調査研究にとどまらず、文化遺産の保護活用など、幅広く文化財を題材とした高水準な研究と教育を世界に発信しています。

帝京大学シルクロード学術調査団が10回目のアク・ベシム遺跡調査をキルギスで行いました

2023年4月18日(火)、帝京大学シルクロードの学術調査団がキルギスで遺跡調査を行いました。通算で10回目となるアク・ベシム(スィヤブ)遺跡調査になります。本学は2016年4月、ユーラシア大陸を東西に貫く文明の交流の道であるシルクロードの学術調査を目的に、文化財研究所および文学部の教員を中心とした「帝京大学シルクロード学術調査団」を結成しました。同調査団の研究テーマは、シルクロード沿いの拠点都市の1つであったアク・ベシム遺跡の発掘を通して、その当時の人びとの生活、歴史、文化を解き明かすことです。また、過去だけでなく、現在そこに住んでいる人びとが、その土地が持つ自然環境の中でどのように生きてきたのかの調査も、大きな研究テーマとなっています。

1. 英語による本学紹介動画公開

教員の海外出張や、国際会議や国際コンベンションでの出展時にご活用いただけるよう3分の本学の紹介動画英語版を作成しました。



<https://www.youtube.com/watch?v=Gc0W6A0D6rQ>

2. 外国人留学生在籍者数

※留学生とは在留資格が「留学」である学生をいう。

学部：経済・法・文・外国語・教育

学部	学科	留学生数(人)				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
文学部	日本文化学科	34	48	50	43	38
	史学科	18	19	26	22	22
	社会学科	33	42	57	67	72
	心理学科	80	83	84	82	79
	文学部合計	165	192	217	214	211
外国語学部	外国語学科	48	49	51	47	42
	国際日本学科	—	—	—	39	88
	外国語学部合計	48	49	51	86	130
教育学部	教育文化学科	24	30	31	40	50
	初等教育学科	0	0	0	0	1
	教育学部合計	24	30	31	40	51
経済学部	経済学科	127	138	124	113	110
	国際経済学科	51	70	87	58	53
	地域経済学科	13	19	19	14	13
	経営学科	301	317	317	284	278
	観光経営学科	92	103	86	67	47
	経済学部合計	584	647	633	536	501
法学部	法律学科	16	21	25	32	29
	政治学科	1	2	2	3	4
	法学部合計	17	23	27	35	33
	合計(留学生数/人)	838	941	959	911	926

※各年度5月1日付の集計結果

学部：医学・医療技術・薬学・理工

学部	学科	留学生数(人)				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
医学部	医学科	0	0	1	1	1
	医学部合計	0	0	1	1	1
薬学部	薬学科	5	6	7	6	6
	薬学部合計	5	6	7	6	6
理工学部	機械・精密システム工学科	41	38	28	23	22
	航空宇宙工学科	3	5	5	6	4
	情報電子工学科	42	50	49	38	46
	バイオサイエンス学科	25	23	22	22	23
	情報科学科通信教育課程	0	0	0	0	0
	理工学部合計	111	116	104	89	95
医療技術学部	視能矯正学科	0	0	0	0	0
	看護学科	0	0	0	0	0
	診療放射線学科	0	0	0	0	0
	臨床検査学科	2	2	2	2	1
	スポーツ医療学科	6	7	7	7	5
	柔道整復学科	0	0	0	0	0
	医療技術学部合計	8	9	9	9	6
福岡医療技術学部	理学療法学科	0	0	0	0	0
	作業療法学科	0	0	0	0	0
	看護学科	0	0	0	0	0
	診療放射線学科	0	0	0	0	0
	医療技術学科	0	0	0	0	0
	福岡医療技術学部合計	0	0	0	0	0
	合計(留学生数/人)	124	131	121	105	108

※各年度5月1日付の集計結果

大学院(修士課程)

研究科	専攻	留学生数(人)		
		2021年度	2022年度	2023年度
文学研究科	日本文化専攻	2	5	9
	日本史・文化財学専攻	0	1	1
	臨床心理学専攻	2	3	1
	心理学専攻	—	—	0
	文学研究科合計	4	9	11
経済学研究科	経済学専攻	8	11	11
	経営学専攻	41	27	25
	地域経済政策学専攻	1	1	1
	経済学研究科合計	50	39	37
法学研究科	法律学専攻	0	0	2
	法学研究科合計	0	0	2
理工学研究科 理工学研究科(通信教育課程)	総合理工学専攻	9	14	12
	情報科学専攻	0	0	0
	合理工学研究科合計	9	14	12
医療技術学研究科	視能矯正学専攻	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0
	診療放射線学専攻	0	0	0
	臨床検査学専攻	0	0	1
	救急救護学専攻	0	0	0
	スポーツ健康科学専攻	0	0	0
	柔道整復学専攻	0	0	0
	医療技術学研究科合計	0	0	1
外国語研究科	超域文化専攻	4	1	2
	外国語研究科合計	4	1	2
保健学研究科	診療放射線科学専攻	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0
	保健学研究科合計	0	0	0
教職研究科	教職実践専攻	0	0	0
	教職研究科合計	0	0	0
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻2年コース	1	1	1
	公衆衛生学専攻1年コース	0	0	0
	公衆衛生学研究科合計	1	1	1
研究科等連係課程	総合データ応用プログラム	—	0	3
	研究科等連係課程合計	0	0	3
合計		68	64	69

※各年度5月1日付の集計結果

大学院(博士課程)

研究科	専攻	留学生数(人)		
		2021年度	2022年度	2023年度
医学研究科	医学専攻	0	0	1
	医学研究科合計	0	0	1
文学研究科	日本文化専攻	0	0	0
	日本史・文化財学専攻	0	0	0
	心理学専攻	0	0	0
	文学研究科合計	0	0	0
薬学研究科	薬学専攻	0	0	0
	薬学研究科合計	0	0	0
経済学研究科	経済学専攻	2	0	0
	経営学専攻	1	2	2
	経済学研究科合計	3	2	2
法学研究科	法律学専攻	0	0	0
	法学研究科合計	0	0	0
理工学研究科	総合理工学専攻	0	0	1
	理工学研究科合計	0	0	1
医療技術学研究科	視能矯正学専攻	0	0	0
	看護学専攻	0	0	0
	診療放射線学専攻	0	0	0
	臨床検査学専攻	0	0	0
	医療技術学研究科合計	0	0	0
外国語研究科	超域文化専攻	0	0	0
	外国語研究科合計	0	0	0
保健学研究科	診療放射線科学専攻	0	0	0
	保健学研究科合計	0	0	0
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻博士後期課程	0	0	0
	公衆衛生学研究科合計	0	0	0
研究科等連係課程	医療データサイエンスプログラム	0	0	0
	研究科等連係課程合計	0	0	0
	合計	3	2	4

※各年度5月1日付の集計結果

3. 学生の海外派遣実績

キャンパス	プログラム名	留学先 (国名・機関)		対象学部・学科	対象年次	参加 人数	留学期間				
八王子	交換留学	メキシコ		経・法・文・外・教	2～4年次	1	8月～12月				
		韓国	パナメリカ大学			前期：1 後期：5	8月～12月 8月～翌2月 8月～翌6月				
			嘉泉大学			後期：1					
			水原大学			前期：2 後期：2					
			崇実大学			前期：2 後期：1					
			東亜大学			前期：1 後期：1					
			済州大学			前期：1 後期：1					
		フランス				オルレアン大学	前期：2 後期：1	8月～翌4月			
	全員留学プログラム (GCP)	英語 コース	アメリカ	コロンバス州立大学	外国語学部 外国語学科	2年次	3	8月～2月			
				デラウェア大学			7				
				南カリフォルニア大学			13				
			カナダ	カレッジ・オブ・ザ・ロッキーズ			11				
				カルガリー大学			20				
				イギリス			帝京大学ダラムキャンパス		15		
			アイルランド	ダブリンシティ大学			11				
			オーストラリア	ビクトリア大学			10				
			ニュージーランド	クライストチャーチ工科大学			13				
			フィリピン	デ・ラ・サル大学ダスマニヤス			4				
		マレーシア	サンウェイ大学	5							
		フランス語 コース	フランス	オルレアン大学			5				
				クレルモン・オーベルユ大学			3				
			カナダ	ジョン・キール予科大学			6				
		ドイツ語 コース	ドイツ	ゲーティンステイトゥートフライブルク校			4				
				ゲーティンステイトゥートフベルン校			2				
				ライプツィヒ大学			8				
		スペイン語 コース	スペイン	グラナダ大学			10				
				サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学			5				
		中国語 コース	中国	華東師範大学			9				
				北京言語大学			6				
			台湾	義守大学			3				
		コリア語 コース	韓国	漢陽大学			18				
				東亜大学			3				
				崇実大学			17				
				釜山外国語大学			10				
				韓国外国語大学			14				
		ダラム留学	イギリス	帝京大学ダラムキャンパス			経・法・文・外・教・ スポーツ医療・大短		1～3年次	前期：8 後期：9 特待生：1	前期：4～9月 後期：9～翌2月 特待生：9～翌2月
		ECCPダラム研修	イギリス	帝京大学ダラムキャンパス			経済学部		2～4年次	11	2月～3月
		国際経済学科長期 東南アジア 長期英語研修	インドネシア	ジェンデル・スディルマン大学			経済学部国際経済学科		2～3年次	1	8月～翌3月
			カンボジア	バニヤストラ大学						2	
			タイ	バンヤピット経営学院						2	
		国際経済学科長期 東南アジア 短期英語研修	ベトナム	ホーチミン市外国語情報技術大学			1年次		2	8月～9月	
			カンボジア	バニヤストラ大学					1		

キャンパス	プログラム名	留学先 (国名・機関)		対象学部・学科	対象年次	参加 人数	留学期間
八王子	語学・文化研修プログラム (GJS)	タイ	バンヤピワット経営学院	外国語学部 国際日本学科	2年次	1	3月～8月
		カンボジア	パニヤストラ大学			2	
		ベトナム	ホーチミン市外国語情報技術大学			3	
		フィリピン	アダムソン大学			5	
		ニュージーランド	クライストチャーチ工科大学			19	
		イギリス	帝京大学ダラムキャンパス			12	
		オーストラリア	ビクトリア大学			17	
	夏期短期研修	オーストラリア	ウーロンゴン大学	経・法・文・外・教・ スポーツ医療・大短	1～4年次	14	7月～9月
		カナダ	バンクーバーアイランド大学			6	
		韓国	東亜大学			1	
			崇実大学			10	
		イギリス	帝京ロンドンキャンパス、ダラムキャンパス			13	
		スペイン	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学			1	
	春期短期研修	イギリス	帝京ロンドンキャンパス			7	1月～3月
		ドイツ	GSLベルリン			6	
		オーストラリア	グリフィス大学			8	
		カナダ	カレッジ・オブ・ザ・ロッキーズ			8	
		アメリカ	オレゴン大学			3	
		マカオ	マカオ大学	経・法・文・外・教		5	3月
	認定留学	アメリカ	カリフォルニア州立大学サンマルコス校	経・法・文・外・教・ スポーツ医療	1～4年次	1	3月～12月
	海外スポーツマネジメント研修 (ドイツ)	ドイツ	ボルシア・ドルトムント	経済学部経済学科・ 経営学科・ 国際経済学科	2～4年次	22	2月
	海外スポーツマネジメント研修 (アメリカ)	アメリカ	アメリカアリゾナ州スコッツデール市 およびサンディエゴ市	経済学部経済学科・ 経営学科・ 国際経済学科	2～4年次	6	2月～3月
	領域横断演習Ⅱ・Ⅳ フィールドワーク	台湾	開南大学 淡江大学	外国語学部 外国語学科	3～4年次	5	2月
	海外インターンシップ (ベトナム)	ベトナム	ホーチミン	経・法・文・外・教・ スポーツ医療	1～4年次	12	8月～9月
	海外インターンシップ (オーストラリア)	オーストラリア	シドニー	経・法・文・外・教・ スポーツ医療	1～4年次	5	8月～9月
	海外インターンシップ (シンガポール)	シンガポール	ジュロン	経・法・文・外・教・ スポーツ医療	1～4年次	16	8月
宇都宮	短期研修 イギリスコース	イギリス	帝京ロンドンキャンパス・ダラムキャンパス	理工学部 経済学部地域経済学科 医療技術学部柔道整復学科	1～4年次	1	3月
	デンバー研修	アメリカ	北コロラド大学・レジス大学他	医療学部柔道整復学科		7	2月～3月
	韓国・水原大学短期研修	韓国	水原大学	理工学部 経済学部地域経済学科 医療技術学部柔道整復学科		3	2月
板橋	春期短期研修	アメリカ	オレゴン大学(付属語学学校)	医・薬・医療	1～6年次 (板橋キャンパス)	2	2月
		イギリス	帝京ロンドンキャンパス・ダラムキャンパス			2	3月
		オーストラリア	グリフィス大学付属語学学校			1	2月～3月
		カナダ	カレッジ・オブ・ザ・ロッキーズ(付属語学学校)			6	2月～3月
	スイス放射線技術学研修	スイス連邦	ヴォー州立ヴォー保健科学大学	診療放射線学科	3～4年次	10	10月
	台北医学大学交流プログラム	台湾	台北医学大学	看護学科		4	3月
福岡	衛生学公衆衛生学実習	ベトナム社会主義共和国	国立小児病院、国立ハノイ医科大学、 JICAベトナム事務所等	医学部	5年	8	7月
	春期イギリス短期研修	イギリス	帝京ロンドンキャンパス・ダラムキャンパス	福岡医療技術学部	1～3年次 (学科によって 異なります)	2	3月
	海外医療研修(デンバー研修)	アメリカ	コロラド州デンバー			28	9月

4. 学部・学科・研究科英語名称

※2023 年度 9 月時点

学部・学科・研究科等	
帝京大学	Undergraduate (Teikyo University)
文学部	Faculty of Liberal Arts
日本文化学科	Department of Japanese Cultures
史学科	Department of History
社会学科	Department of Sociology
心理学科	Department of Psychology
外国語学部	Faculty of Language Studies
外国語学科	Department of Language Studies
国際日本学科	Department of Global Japanese Studies
教育学部	Faculty of Education
教育文化学科	Department of Education and Culture
初等教育学科	Department of Elementary Education
経済学部	Faculty of Economics
経済学科	Department of Economics
国際経済学科	Department of International Economy
地域経済学科	Department of Regional Economics
経営学科	Department of Business Administration
観光経営学科	Department of Tourism Management
法学部	Faculty of Law
法律学科	Department of Law
政治学科	Department of Political Science
医学部	School of Medicine
医学科	Department of Medicine
薬学部	Faculty of Pharma-Science
薬学科	Department of Pharma-Science
理工学部	Faculty of Science and Engineering
機械・精密システム工学科	Department of Mechanical and Precision Systems
航空宇宙工学科	Department of Aerospace Engineering
バイオサイエンス学科	Department of Biosciences
情報電子工学科	Department of Information and Electronic Engineering
情報科学科（通信教育課程）	Department of Information Science Correspondence Course
医療技術学部	Faculty of Medical Technology
視能矯正学科	Department of Orthoptics
看護学科	Department of Nursing
診療放射線学科	Department of Radiological Technology
臨床検査学科	Department of Clinical Laboratory Science
スポーツ医療学科	Department of Sport and Medical Science
柔道整復学科	Department of Judo Therapy
福岡医療技術学部	Faculty of Fukuoka Medical Technology
理学療法学科	Department of Physical Therapy
作業療法学科	Department of Occupational Therapy
看護学科	Department of Nursing
診療放射線学科	Department of Radiological Technology
医療技術学科	Department of Medical Technology

帝京大学大学院	Graduate School (Teikyo University)
医学研究科	Graduate School of Medicine(Doctoral Degree Program)
文学研究科	Graduate School of Liberal Arts(Doctoral and Master's Degree Programs)
薬学研究科	Graduate School of Pharma-Science(Doctoral Degree Program)
経済学研究科	Graduate School of Economics(Doctoral and Master's Degree Programs)
法学研究科	Graduate School of Law(Doctoral and Master's Degree Programs)
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering(Doctoral and Master's Degree Programs)
医療技術学研究科	Graduate School of Medical Care and Technology(Doctoral and Master's Degree Programs)
外国語研究科	Graduate School of Languages and Cultures(Doctoral and Master's Degree Programs)
保健学研究科	Graduate School of Health Sciences(Doctoral and Master's Degree Programs)
教職研究科（専門職大学院）	Graduate School of Teacher Education(Master's Degree Program)
公衆衛生学研究科	Graduate School of Public Health(Doctoral and Master's Degree Programs)

帝京大学 国際化アニュアル・レポート 2023

2025 年 10 月発行

編集・発行 帝京大学 国際化推進室

【TEL】

板橋オフィス（本部棟 5 階） 03-3964-9044（外線）/20580（内線）

八王子オフィス（11 号館 2 階） 042-678-3306（外線）/3306（内線）

【email】

globalio@teikyo-u.ac.jp（国際化推進室共有）
